沖縄県護国神社社報

うむい16号

社報「うむい」について

沖縄の言葉で「想い、願望、考え、所存」のことを「ウムィー」といい、戦争で亡くなっていった人達の思い、そして残された遺族、戦友達の想いを次の世代へと継承すべくつけられた名前。

日清戦争以後、敢然と国難に立ち向かっていった先人たちの尊い精神が、この「うむい」を通して末代まで受け継がれ、真に戦争の無い平和な世の中になるようにとの願いが込められている。

第54回春季例大祭　陸上自衛隊 那覇基地太鼓部「鼓風」の奉納太鼓

記事夢成（キジムナー）

「沖縄県民斯ク戦ヘリ県民ニ対シ後世特別ノ御高配ヲ賜ランコトヲ」千葉県出身で沖縄根拠地隊の大田實司令官＝当時海軍少将、後に中将＝が沖縄戦終結直前昭和二十年六月六日、海軍次官宛てに打電した電文終尾の一部である。六月十三日海軍司令部内で幕僚五名とともに大田司令官は自決した。▼司令部がある小禄一帯を占拠した米軍が戦利品として本国へ持ち帰った、海軍司令部壕頂上に掲揚されていた『日章旗・少将旗』が、この春戦後六十七年を経て大田司令官の御遺族の手に返還されていた。▼これは、県内在住の自衛隊某ＯＢが、米海兵隊キャンプキンザー内にある沖縄戦歴史資料館を見学したとき発見し、この少将旗が陸戦隊として真価を発揮するため掲揚され戦闘士気高揚と、この根拠地隊基地の死守を宣明していたであろうと察し、是非とも日本側に返還願いたいと交渉し、苦労の末実現した。▼返還式は五月二十七日の海軍記念日、海軍慰霊祭に併わせ行われた。二つの旗はさらに御遺族から海友会へ管理を委託し、現在は旧海軍司令部壕資料館に展示されている。▼こうして、ゆかりの地に再び舞い戻った旗には大田司令官の忠魂がいまなお息づいている。沖縄にご来訪の際は南部戦跡のみならず是非海軍壕もお訪ね頂きたい。そして、護国神社のご英霊をお慰め頂きたい。

戦没者を慰霊する大御心

会長　座喜味　和　則

平成元年一月八日に第一二五代天皇の皇位継承された天皇陛下が初めて皇后陛下と共に沖縄県に行幸啓されたのが平成五年四月二十三日で「第四十四回全国植樹祭」ご臨席でありました（皇太子殿下の時は五回沖縄県をご訪問されておられます）。天皇皇后両陛下は、午後那覇空港ご到着と同時に南部戦跡の巡拝にご出発され、最初に「国立沖縄戦没者墓苑」を懇ろに慰霊されました。次いで「沖縄平和祈念堂」で県内各市町村遺族会代表二百名の前で約七分間、原稿なしでご自分のお気持ちを表された有難い「おことば」をいただきました。私は沖縄県遺族連合会会長として列の先頭に立っていました。両陛下の大御心に接して深く感銘、感激致したことは終世忘れられません。二日後の二十五日、「第四十四回全国植樹祭」が沖縄戦最激戦地の糸満市米須ヶ丘で挙行されました。約三千名の各界、各市町村代表が招待され、私も参列させて頂きました。午前十時、両陛下が会場にご到着と同時に参列者は一斉に立ち上がって「日の丸の小旗」を振り万歳を叫んでご歓迎申し上げ、両陛下は両手をあげて何度も全員にお答えになられました。その光景は県民が皇室に対する尊崇の表れであり、頼もしい限りで今なお私の脳裏に深く残っています。

二回目は終戦五十年慰霊の旅で、平成七年八月二日の日帰りのご巡拝で、前回と同じく戦没者と遺族を励まされました。大変お疲れになられた事と存じます。県内では伊江島の激戦地慰霊、宮古島、八重山の慰霊にも足をのばされておられます。更に終戦六十周年には遠く南洋群島サイパン島のご巡拝をされておられます。南洋各島での戦没者も関係遺族も大変慰められた事でしょう。両陛下は六月二十三日の沖縄戦終結の日、八月二十二日の疎開船対馬丸が犠牲となった日には毎年皇居で沖縄に向って黙祷を捧げておられます。この様に戦没者を慰霊し続けておられる両陛下の敬虔なお姿に接し神々しく感謝に堪えません。来る十一月十八日は「第三十二回全国豊かな海づくり大会」が沖縄戦激戦地糸満市で催され両陛下が行幸啓されます。今回も先ず南部戦跡をご巡拝されることと存じます。私達県民はこぞって心からご歓迎申し上げ、大御心にお応えしようではありませんか。益々のご皇室の弥栄をお祈り申し上げます。

ご挨拶

宮司代務者　加　治　順　人

ご遺族、崇敬者の皆様方には、平素より格別なるご支援、ご高配をたまわり厚く御礼を申し上げます。

今年は沖縄が本土へと復帰し、四十周年の節目の年となります。同時に沖縄県神社庁設立四十周年にも当たります。それを記念し九州地区神職総会が沖縄を当番県として開催され、その一環として五月九日に県神社庁と共に、神宮鷹司尚武大宮司ほか九州各県より多数の神職を当神社にお招きして「沖縄戦全戦没者慰霊祭」を斎行致しました。

また、五月十五日の復帰記念日には「沖縄祖国復帰四十周年記念祭」を斎行し、六月十二日には神道青年全国協議会の主催により「沖縄県全戦没者慰霊祭並びに尖閣諸島早期解決祈願祭」を斎行致しました。このような節目の時期に、本来でしたら伊藤陽夫宮司が斎主としてご奉仕し、御祭神へご奉告申し上げるところではございますが、今年二月から体調を崩し、現在も自宅のある兵庫県芦屋にて療養を続けております。そのため、四月二十三日の春季例大祭を始めとする一連の祭典を禰宜であります私が宮司に代わりまして斎行してまいりました。

この度、八月一日付けで宮司代務者を拝命し、伊藤宮司不在中の留守番を仰せつかることになりました。

これから十一月には、糸満市で開催されます「第三十二回全国豊かな海づくり大会」に御臨席のため、天皇皇后両陛下の沖縄県への行幸啓が予定されております。

また、十月二十三日の秋季例大祭をはじめ、七五三詣で、正月祈願など多くの祭典行事が執り行われます。伊藤宮司の一日も早い社務復帰を願いつつ、まだまだ一知半解の身ではございますが、御奉迎活動並びに諸祭典行事をより円滑に進めるべく一所懸命執り行っていく所存でございます。

何卒倍旧のご指導、ご協力のほどお願い申し上げ、宮司代務者拝命の挨拶とさせていただきます。

来る十一月十七・十八日「第三十二回全国豊かな海づくり大会」於：沖縄県糸満市

十八日　五，〇〇〇人の提灯大パレード開催

天皇皇后両陛下行幸啓

県内奉迎ムード

九月二日、「天皇陛下奉迎沖縄県実行委員会」発会式が行われ県内各界より一七〇名が出席、盛大にスタート致しました。

実行委員会の会長には当神社責任役員、沖縄特定免税店（株）代表取締役社長で元沖縄県副知事の嶺井政治氏が就任されました。

本号では、実行委員会世話人代表であり皇室崇敬会会長また当神社の総代である久保田照子氏に奉迎に関しての思いを語って頂きました。

天皇皇后両陛下を県民こぞって奉迎いたしましょう。

天皇陛下奉迎沖縄県実行委員会世話人代表
一般社団法人 皇室崇敬会 会長
沖縄県護国神社 総代
久保田　照子

祖国復帰四十周年の節目を迎えた年に、天皇皇后両陛下の御臨席を賜りまして『守ろうよ きせきのほしの あおいうみ』をテーマに「第三十二回全国豊かな海づくり大会～美ら海おきなわ大会～」が十一月十七日、十八日と糸満市に於いて開催されます。

沖縄県は、先の大戦で長きにわたり米軍施政下に置かれる等、他に類を見ない歴史があります。しかし、沖縄県は万国津梁の「世界の架け橋」としての精神をもってたゆみない戦後復帰を成し遂げ悲願の祖国復帰を果たしました。祖国復帰に携わってこられました多くの皆様のご労苦には言い表す言葉が見つかりません。只ただ、心より感謝を申し上げる次第であります。

天皇皇后両陛下は、皇太子時代より幾度となく沖縄県に行幸啓遊ばされ、県内の各地・各施設を御視察なされております。

天皇陛下におかれましては、特に、琉歌を八・八・八・六の三十文字で詠まれる琉球王朝時代から沖縄に伝わる型詩を皇太子時代から独学で学んでおられ、外間守善先生が沖縄学と琉歌を度々ご進講なされております。

六月二十三日の慰霊の日の前夜祭には、全国から集まった遺族の前で天皇陛下がお詠み遊ばされた琉歌「摩文仁」

ふさかいゆる本草（フサケ ユル キクサ）
めぐる戦跡（ミグル ルイクサアトゥ）
くり返し返し（クリカイシ ガイシ）
思ひかけて（ウムイカ キティ）
が献奏されております。

国立劇場おきなわの庭園には

国立劇場（コクリツゲキジョウ）
沖縄に開き（ウチナーニ フィラチ）
執心鐘入（シュウシンカネイリ）
見ちやるうれしや（ンチャルウリシャ）

琉歌の御製碑が建立されております。また、全国植樹祭の折にお詠み遊ばれた琉歌は、昨年こちらの沖縄県護国神社の境内に建立されました。

弥勒世よ願て（ミルクユ ユニガティ）
揃りたる人 たと（スリタルフィトゥタトゥ）
戦場の跡に（イクサバヌ アトゥニ）
松よ植ゑたん（マツイユ ウイタン）

天皇皇后両陛下は、常に沖縄に深い関心をお持ちになられております。

天皇皇后両陛下の御心にお応えすべく、沖縄県民の温かい心と感謝の気持ちで県民こぞって奉迎活動にご参加下さい。十八日の夕刻には国際通りにて奉迎の提灯行列を行うことが決まっております。皇室と沖縄の深い深い絆を新たにし、平和で豊かな沖縄県を目指して参りたいと思います。

9月2日 発表会

※「沖縄にそがれる大御心」はお休み致します。

祖国復帰40周年を迎えて
（関連祭典報告）

6月12日

第五十四回 春季例大祭

四月二十三日午後一時、第五十四回春季例大祭が斎行されました。加治禰宜斎主の祝詞奏上のあと大祭委員長座喜味和則氏、沖縄県遺族連合会会長照屋苗子氏による祭文が奏上されました。続いて茶道裏千家淡交会沖縄県支部の御奉茶、陸上自衛隊那覇基地太鼓部「鼓風」の奉納演奏、また巫女による「みたま慰め二人舞」が奉奏され厳粛に無事斎了致しました。

祭典前に行われた奉納芸能では民謡歌手で沖縄の伝統打楽器・三板（さんば）の第一人者としても有名な田場盛信さんによる民謡ショーが神楽殿にて催されました。早くからお集まりの御遺族の方々に祭典開始までの時間を楽しんで頂きました。

田場盛信 民謡ショー

九州の神職参列のもと沖縄戦全戦没者慰霊祭

五月九日、年に一度九州地区の神職が一同に会する「九州地区神職総会」が当沖縄県の当番にて開催されるにあたり、集まった約二百名の神職の方々の御参列のもと当神社において午後一時半より沖縄戦全戦没者慰霊祭を斎行致しました。加治禰宜斎主以下沖縄県の神職八名でご奉仕申し上げ、雅楽の流れるなか神饌が供えられ、祝詞奏上に続き、みたま慰めの舞が奉奏されました。また、御来賓の神宮大宮司鷹司尚武様をはじめ、神道政治連盟会長長宗我部延昭様、皇學館大學学長清水潔様、日本会議事務総長椛島有三様等からそれぞれ玉串奉奠を賜りました。

神宮 鷹司尚武大宮司

みたま慰めの舞

本年は復帰四十周年の記念すべき年を迎へ神社界でも摩文仁が丘他の各県の慰霊塔の前において県単位で慰霊祭が斎行されております。

また、前日の五月八日、には「沖縄県神社庁設立四十周年記念式典」も開催されました。設立から四十周年を迎え復帰と共に沖縄の神社界も整えられ今に至っております。

沖縄祖国復帰四十周年記念祭

五月十五日、午前十時、沖縄祖国復帰四十周年記念祭が加治禰宜斎主のもと斎行されました。

毎年この日は神職のみで祭典が斎行されておりましたが、本年は復帰四十周年の記念すべき佳き年にあたり約百名のご参列を頂き斎行されました。祝詞奏上に続き座喜味会長が祭文で、四十年前の復帰当初を振り返ると共に、現在沖縄が抱える諸問題の早期解決を切望し、ご英霊が安らかに鎮まりますようご祈念申し上げました。

全国より青年神職集い慰霊祭

六月十二日、全国の若い神職で組織される神道青年全国協議会の主催で、沖縄県本土復帰四十周年記念事業として当神社において沖縄県全戦没者慰霊祭及び尖閣諸島諸問題早期解決祈願祭が斎行されました。加治禰宜が斎主を務め、以下各県青年会代表神職総勢六十五名の奉仕、その他青年会員五十名が参列し厳粛な祭典が行われました。先ず、国歌を斉唱、修祓、斎主二拝のあと雅楽の流れる中種々の神饌十二台が供えられ、祝詞が奏上されました。続いて神道青年全国協議会より幣帛を奉り、同会大野清徳会長が祭詞を奏上致しました。そのあと「浦安の舞」が奉奏され、沖縄県神道青年会田場聡会長他県内の神職二名の三線による「琉歌」が献詠されました。青年神職の清々しい姿に御祭神も、安らかなひと時を過ごされたことと存じます。

幣帛献上

同会は、昭和三十二年から沖縄本土復帰運動に取り組み昭和四十七年の復帰に際しては波照間島に全国の名石を持ちより「波照間の碑」を建立したのをはじめ国旗掲揚塔の建設、「聖寿奉祝の碑」の建立、さらに周年ごとに慰霊祭を斎行しています。また、十年前の復帰三十周年記念にも同様に当神社において慰霊祭が執り行われております。

沖縄全戦没者慰霊祭

六月二十三日、沖縄全戦没者慰霊祭が斎行されました。沖縄では毎年この日前後梅雨明けとなります。本年も暑い中、約百三十名のご参列を頂きました。先ず始めに参列者とともにご英霊に黙祷を捧げ国歌を斉唱、祝詞奏上、靖國神社をはじめ多くの慰霊電報が御奉告されました。この日は朝から随時ご遺族がご参拝され、それぞれにご英霊に報謝の意を捧げられたことと思います。

みたままつり

八月十五日、戦後六十七回目の終戦記念日を迎え正午よりみたままつりが英霊にこたえる会沖縄県本部共催、沖縄県遺族連合会、日本会議沖縄県本部後援により斎行されました。先ず黙祷を捧げ、全国戦没者追悼式に御臨席されている天皇陛下のお言葉をラジオから拝聴し、祭典が始まりました。祝詞奏上のあと英霊にこたえる会沖縄県本部会長仲宗根義尚氏が祭文を奏上し参列者と共に、御英霊の安らかならんことをお祈り申し上げました。

祭文献上

記念講演会

祭典後は大ホールにて記念講演会が行われ、全日本学生文化会議三荻祥氏に「忘れてはならない日、終戦記念日～皇室と沖縄の絆～」と題してご講演頂きました。三荻氏は、二十代の若い女性ですが皇室のことについてよく研究されており、沖縄の現地取材にも取り組まれ、天皇陛下がいかに沖縄に想いを寄せられているかという事を女性ならではの優しい語り口で、お話下さいました。講演冒頭に「別れの曲」というひめゆり学徒隊が歌っていた歌を披露されました。この歌は参会の皆さんの心に深く響いたようです。

社務日誌抄

平成二四年四月～平成二四年九月

4月

2～5日　沖縄県皇居勤労奉仕
西谷権禰宜出向
9日　知念範紺琉舞琉装道場
正式参拝
12日　**天皇陛下御病気平癒奉告祭**
14日　沖宮例大祭禰宜参列
17・18日　表千家同門会正式参拝
19日　（株）オリオンビール
具志堅宗精翁を偲ぶ会
会長・局長出席
22日　三善会正式参拝
22日　**宵宮祭**
23日　**第五十四回春季例大祭**
27日　熊野速玉神社上野顕宮司
正式参拝
29日　**昭和祭**
29日　昭和天皇の御聖徳を
伝えつぐ集い局長出席

4月17～18日社団法人表千家同門会の第67回全国大会「美ら島沖縄大会」が昭和56年以来31年ぶりに沖縄で開催され、当神社の和室が表千家家元である千宗左氏の濃茶席となりました。お席に入る前に正式参拝を頂きました。両日併せて全国から約1,000人の方々が訪れました。

5月

4日　世界平和連合沖縄県連合会
正式参拝
5日　先天光神明宮例大祭
局長参列
7日　島根県神社庁青木義興庁長
正式参拝
8日　鹿児島縣護國神社
野村浩平宮司・秋田縣護國
神社面山浩康宮司正式参拝
8日　長崎縣護國神社正式参拝
8日　沖縄県神社庁四十周年記
念式典役員他出席
9日　皇學館大學
清水潔学長
正式参拝
9日　**沖縄戦全戦没者**
慰霊祭
11日　日本会議近畿ブ
ロック自由参拝
12日　日本協議会
正式参拝
12日　日本会議
関東ブロック
正式参拝
12日　たちあがれ日本
青年部正式参拝
12日　日本会議正式参拝

琉舞「四ッ竹」　知念範紺琉舞道場琉装学院の皆さん。4/9

12日　沖縄県祖国復帰四十周年
記念大会役員他出席
13日　たちあがれ日本かけはし塾
正式参拝
13日　日本会議中国ブロック
正式参拝
14日　SnsFreeJapan沖縄県連
正式参拝
15日　**沖縄祖国復帰四十周年**
記念祭
17日　波上宮例大祭局長参列
前原権禰宜助勤
20日　那覇遺族会正式参拝
26日　世界平和大使協議会
正式参拝
27日　世界戦略研究所正式参拝
29～31日　全国護國神社會
「みたま慰めの舞」温習岸
本巫女参加

6月

8日　解脱会正式参拝
11・12日　神道青年全国協議会
沖縄県本土復帰四十周年
記念事業「沖縄本土復帰
四十周年奉告祭」（石垣
島）西谷権禰宜参列「沖縄
県全戦没者慰霊祭及び尖
閣諸島問題早期解決祈願
祭」禰宜・前原権禰宜奉仕
13日　沖縄県神道青年会発足
三十周年奉告正式参拝同
会式典局長参列
16日　海上挺進隊碑慰霊祭
西谷権禰宜・大城巫女奉仕
17日　沖縄語普及協議会
正式参拝
17日　しづたまの塔慰霊祭参列、
禰宜・岸本巫女奉仕
22日　埼玉県遺族連合会33名
正式参拝
22日　勇魂の碑慰霊祭
禰宜・前原権禰宜奉仕
23日　**沖縄全戦没者慰霊祭**
24日　ことだま研究会正式参拝
29日　沖縄戦跡慰霊巡拝団正式参拝
30日　**古神札焼納祭**
水無月晦大祓式

7月

7日　茶道裏千家淡交会
沖縄県支部正式参拝
11日　熱田神宮小串和夫宮司
正式参拝
21日　沖縄「正論」友の会
正式参拝
23日　英霊にこたえる会
沖縄県本部運営委員会
局長、禰宜出席
25日　沖縄県神社庁定例役員会
禰宜出席
28日　平成二十四年度第二回
責任役員会
30日　**明治天皇百年奉告祭**

8月

8日　第五回総代会
9日　伊藤玲子様正式参拝
15日　**終戦記念日みたま祭り**
18・19日　尖閣諸島洋上慰霊祭
木村権禰宜奉仕
19日　群馬県遺族の会正式参拝
22日　対馬丸慰霊祭会長参列

9月

2日　茅原書藝会正式参拝
2日　天皇陛下奉迎沖縄県
実行委員会発会式宮司代
務者出席
4・5日　神道青年九州地区
協議会研修会西谷・前原・
木村・高良権禰宜参加
5日　全日本文化会議
英霊顕彰祭
5日　福井県神社庁福井支部
正式参拝
6日　英霊にこたえる会沖縄県
本部運営委員会宮司代務
者出席
8日　日本保育協会沖縄県支部
正式参拝
9日　ことだま研究会正式参拝
15日　識名宮例大祭宮司代務者参列
22日　**秋季皇霊祭遥拝式**
23日　表千家同門会沖縄県支部
正式参拝
23日　修養団捧誠会神石祭奉仕
30日　茅原書藝会正式参拝

1/100神社模型奉納

サイ・テク・カレッジ那覇の建築デザイン科（清成翔慈外5名）の学生が建築模型展に出品のため制作下さいました。学生たちは初詣が県内一という多くの人から愛されている神社の構造を学び、さらに多くの人々が護国神社のことを知ってほしいと願い一生懸命取り組まれたそうです。ありがとうございました。

永代命日慰霊祭新規申込者御芳名

埼玉県さいたま市　吉澤　吉治様
大阪府豊中市　竹内　常彦様
北海道札幌市　井上十重子様
福岡県筑紫野市　今井　正己様

永代命日慰霊祭御供奉納御芳名（重複掲載有）

愛知県大山市　吉野　吉雄様
北海道千歳市　工藤　イク様
岐阜県美濃市　纐纈　信義様
北海道札幌市　櫻井　朋子様
神奈川県鎌倉市　関　政子様
北海道美唄市　馬面　美枝様
三重県津市　吉川　つや様
岐阜県鍵屋中町　江崎　明美様
北海道札幌市　櫻田スミ子様
北海道札幌市　天野　喜美様
北海道札幌市　古川　きみ様
愛知県豊橋市　杉浦　文子様
北海道札幌市　岩井川君子様
岩手県花巻市　タエ様
北海道函館市　伊藤　和子様
愛知県豊橋市　牧　君子様
東京都調布市　米澤　務様
三重県津市　吉川　つや様
埼玉県鴻巣市　菊池　周一様
大分県玖珠郡　中島　美千代様
岡山県久米郡　布野　芳子様
愛知県豊橋市　小野よし子様
熊本県熊本市　松尾　雪子様
岡山県津山市　石川　好蔵様
北海道札幌市　沼田　栄二様
北海道苫前郡　土田　千代様
北海道北斗市　田島　義勝様
福島県喜多方市　田中　静子様
宮城県黒川郡　菅原　昭二様
茨城県取平市　大塚　幸男様
北海道上川郡　松田　文江様
熊本県山鹿市　岡部　典子様
滋賀県滋賀郡　福永　博様
静岡県焼津市　松田　まさ様
沖縄県石垣市　瀬名波長宏様
三重県伊勢市　村井　洋子様
北海道札幌市　北村　孝子様
徳島県阿南市　幸田　純子様
沖縄県中城村　宮平オトメ様
沖縄県那覇市　森田　孝秋様
沖縄県豊見城市　宮良　慎三様
北海道網走市　成田　宏様
北海道札幌市　川上ふさえ様
愛知県一宮市　後藤　修士様
神奈川県横浜市　松本　敬子様
京都市八幡市　斉藤　金蔵様
福岡県筑紫野市　今井　正巳様
岐阜県下呂市　熊崎　つや様
北海道北見市　十良澤義治様
東京都江戸川区　岡田　昌久様
千葉県市川市　松永　修巳様
北海道札幌市　高田　利喜子様
滋賀県甲賀市　宿谷　長巳様
三重県伊勢市　外山　長次様
沖縄県那覇市　とめ様
群馬県甘楽郡　新垣　信正様
北海道札幌市　中村　植松様
愛知県海部郡　気田　三香様
群馬県高崎市　江積　一郎様
千葉県八街市　早智子様　栄一様
静岡県榛原郡　小坂　博志様
北海道上川郡　阿部　辰巳様
東京都調布市　米澤　務様
沖縄県那覇市　与那嶺文子様
北海道札幌市　加藤　勤様
福井県福井市　野阪かよ子様
埼玉県比企郡　阿部　恵一様
愛知県津島市　加藤　英男様
北海道上川郡　福岡　四郎様
沖縄県浦添市　堀池　昭様
滋賀県栗東市　濱松　佐藤　幹男様
長野県諏訪郡　黒木陽一郎様
千葉県八街市　好仁様
埼玉県上尾市　菊地　勝夫様
神奈川県横浜市　小野辺三智子様
神奈川県鎌倉市　関　政子様
北海道函館市　渡辺　幸枝様
大阪府大阪市　石川　博紀様
氷川神社　禰宜　守谷　徳之様
埼玉県桶川市　臼田　智子様
沖縄県那覇市　友寄　隆利様
東京都練馬区　佐々木真太郎様
大分県護國神社　宮司小野　日隆様
北海道函館市　田村　順子様
屋良の友の会
大阪府遺族連合会　池田　剛康様
昊天宮　宮司　彌様
特定非営利活動法人うでどけい様
沖縄県竹富町　島仲　ナミ様

物品奉納者御芳名

神酒　沖縄鶏卵販売（株）様
鶏卵　田村　君江様
鮮魚　居酒屋「翔」様
もち米　沖縄県神道青年会様
卵　大城美和子様
泡盛　（株）久米島の久米仙様
看板幕　（有）ミナミ商事様
復帰記念メダル　坂田　達昌様
ミツ子様

寄贈図書

「なぜ儲かる会社には
神棚があるのか」　窪寺　伸浩様
「オキナワを歩く」　岡本　貞雄様
「沖縄だれにも
書かれたくなかった戦後史」　佐野　眞一様
「平和を愛する世界人として」　野口智恵子様

植樹

梛　熊野速玉大社様
イスノキ　神道青年全国協議会様
フウリンブッソウゲ　吉　良子様

玉串料奉納者御芳名（社務日誌掲載以外）

北海道函館市　時田ミユキ様
坂爪貴美子様
内田喜美子様
兵庫県神戸市　竹内　常彦様
大阪府豊中市　狩野喜美雄様
美瑛神社　宮司

平和の「梛」熊野から琉球へ

沖縄祖国復帰40年を記念し、世界の平和と安寧を祈り和歌山県の熊野速玉大社から熊野の御神木としても知られる「梛」の苗木が植樹されました。「梛」は「凪」に通じ熊野を訪れた人はこの葉をいただき現世安穏、道中安泰の印にしているそうです。

熊野速玉大社上野宮司の強い思いでこの節目に植えられたのは、さかのぼること沖縄祖国復帰の昭和47年、香川県の植木職人山地義一さんが500本の梛を種から育て沖縄の学校へ送られたという話を先代宮司から当時学生であった上野宮司が聞いていたそうで、その苗は沖縄の土になじませる仮植えの後行き先が不明になり、事情を知る山地さんもお亡くなりになられたという事でありました。上野宮司はその梛の追跡調査を10年前から始め、平成22年に沖縄県立北部、中部、南部の各農林高等高校で遂に発見されたそうです。そしてこの節目の年に当神社のみならず県内神社、学校などにも新たに植樹を計画され、沖縄と熊野を結ぶ平和の木としてこの度梛の苗木を植樹されました。大切に育てて行きたいと思います。

※沖縄と熊野は琉球王朝時代から縁が深く、琉球八社と言われる神社の中には熊野権現を勧請する神社が多くあります。

新春奉納芸能

参加団体 個人募集

奉納期間　元日より3日までの10:00～20:00
奉納場所　境内神楽殿また神楽殿前広場にて
使用奉納料　無料
締切り　11月30日　※詳しくはお問い合わせください

初詣

平成25年（巳年）の厄年表

巳年生まれ（新暦）		男性（数え年）	女性（数え年）
平成13年生まれ	昭和28年生まれ	平成元年生（昭和64年生）25歳本厄	平成7年生 19歳本厄
平成元年（昭和64年生）生まれ	昭和16年生まれ	昭和48年生 41歳前厄	昭和57年生 32歳前厄
昭和52年生まれ	昭和4年生まれ	昭和47年生 42歳本厄	昭和56年生 33歳本厄
昭和40年生まれ	大正6年生まれ	昭和46年生 43歳後厄	昭和55年生 34歳後厄

初詣（三が日）のご案内

祈願受付時間　8:00～20:00
※なお4日、5日午前、7日は仕事始めの会社祈願の為個人でのご祈願は受付できません。

お守の授与所　24時間開設
※なお4日以降は時間の変更がございますのでご確認ください。

行事案内

- **大晦日～10日まで 献灯掲場** 境内参道にて
- **2日 夕刻 エイサー 奉納** 琉球風車
- **6日 午後1:30より もちつき 奉納** 那覇青年会議所
  参拝者へぜんざいを振る舞います。

※その他 奉納芸能、振る舞い酒もございます。
詳しくは神社へお問い合わせ下さい。　☎098-857-2798

今後の主な祭典のご案内

- 12月23日 天長祭
- 12月31日 大祓式・除夜祭
- 1月1日 歳旦祭
- 2月11日 紀元祭
- 4月23日 第55回春季例大祭
  どなたでもご参列できます

平成24年 七五三詣

男の子
かぞえ3歳（平成22年生まれ）
かぞえ5歳（平成20年生まれ）

女の子
かぞえ3歳（平成22年生まれ）
かぞえ7歳（平成18年生まれ）

神社へお参りし、お子様の健やかなご成長を祈念いたしましょう

辞令

宮司　伊藤　陽夫
病気により休職を命ず
但し、症状が回復の場合は休職を解く
平成二十四年八月一日付

委嘱状

禰宜　加治　順人
伊藤宮司の休職に伴い
宮司代務者に委嘱する
平成二十四年八月一日付

編集後記

祖国復帰四十年の本年は記念の慰霊祭が多く行われました。神社関係や様々な団体も沖縄に訪れ慰霊をされていたようです。その度ごと、当神社へご参拝を頂きました。さらに、この十一月には沖縄県に天皇皇后両陛下が行幸啓遊ばされることが決まっております。両陛下が当護国神社へ御参拝賜り、お御霊をお慰め頂ける日を願っております。

発行　平成二十四年十月一日
発行所　沖縄県護国神社
〒九〇〇-〇〇二八
沖縄県那覇市奥武山町四四番地
TEL　〇九八-八五七-二七九八
FAX　〇九八-八五七-七九二七
HP　www.okinawa-gokoku.jp/
編集担当　前原　万岐
印刷所　株式会社近代美術